

日本語英国教会ニュースレター

第 89 号 2017年7-8月発行

パウロとルカ

司祭 竹内謙太郎

主イエスが活動を開始した当時のユダヤ・イスラエルをその地理的位置から見ますと、非常に興味深いものがあります。紀元前三百年頃、ギリシャのマケドニアからその政治的活動を開始したマケドニアのアレクサンドロスは、その軍隊を東方に向けて送り込み、現在のインド国境にまで達していました。その結果、彼の勢力範囲はインドから彼の本拠地であるギリシャにまで至る広大な領域を形成しておりました。不幸にも彼は早く病死しますが、この広大な領域は三人の将軍たちによって継承され、三分割されることとなります。その後勃興したローマは、シーザーを指導者としてその領域を拡大し、アレクサンドロスの領域を継承することとなります。しかし、実態はさらに広大で、東はインド国境に始まり、西はスペイン、ポルトガルの大西洋沿岸にまで拡大されました。シーザーは北方にまでその勢力範囲を広げ、現在のイギリスにも軍隊を送っておりました。現在でもヨークシャーにはローマ軍の建設した軍道の跡が残っております。

さて、そのような広大な帝国の地理的に中心地となる位置にユダヤ・イスラエルが存在することは偶然としては余りにも不思議な位置づけのように、私は思います。何か天の配剤があつたのではないかとさえ感じております。地中海の東端ギリシャに面したパレスティナに在るイスラエル、そこに誕生したキリスト教は、そのような地理的位置づけにも支えられ、単にイスラエルの信仰に留まることは出来ませんでした。その教えの本質に伴って、主イエスの教えはユダヤ人だけに対するものにとどまらず全人類への重要なメッセージとしての本質をその初めから明らかにすることとなりました。その方向性を明確にした人物がパウロであり、さらに言えば、ルカという国際人だったと理解しております。

私は当時の状況を理解しようとする程、ルカという人物に注目せざるを得なくなるように強く感じております。

実際、パウロが彼の運動の当初から、主イエスの教えの普遍性を確信していたかどうか、と問うと、むしろ、彼はユダヤ教の教師

として保守的なユダヤ教徒だったのではないかと考えております。そして、実はパウロのその後の普遍的な福音宣教運動を方向付けたのはルカではなかったかと考えます。ルカはギリシャ人です。世界帝国ギリシャの一員として育っています。彼にとって、最大の関心はどのような課題に関する問題でも、この世界帝国という概念抜きには考えられないと取るのは当然の事でしょう。彼がパウロからキリスト教という教えを聞いた時、それはパレスティナの一隅にある信仰とは受け取らなかったはずです。すべてはローマ帝国という枠組みで理解した筈です。ルカはその意味で、むしろパウロを導き、彼の語る福音の言葉を世界的な教えにまで高めたと考えます。その意味でルカはキリスト教会の歴史において、多分最も重要な人物であることは誤りないことと理解しております。これまで、神学校の授業でもルカをそのような意味で理解するように教えられてきましたが、私は新たな視点としてこのような理解を挙げておきたいと思っております。伝承によれば、ルカはパウロの旅に同行し、秘書役のような役割を担っていたとされていますが、もしこれが事実とすれば、使徒言行録を含めてパウロとルカによる文書とされているのはすべてルカの担当するものであったと言うこととなります。それが事実であるならば、すべてのパウロ文書はルカの目を通して生み出されたものということとなります。そうであればそこにはルカのキリスト教信仰理解が十分に書き込まれと言わなければなりません。そして、その中にはルカがパウロをどのように見ていたのか、という客観的なパウロの姿へのルカの観察も見るができるということとなります。大変興味深い課題です。これからしばらく、私たちはルカと一緒にキリスト教がどのようにして世界的な信仰にまで発展していったかを、ルカを通して眺めてみたいと思います。

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

松蔭で与えられた光

河瀬 はる

盲学校—現「視覚障害者特別支援学校」の小学部からミッションスクール（神戸）松蔭中学校に入学し、学校の聖歌隊だけでなく、教会の聖歌隊に参加しました。大学時代からは超教派のクリスチャンクワイアにも参加するようになって、現在に至っています。

松蔭の中高、大学に在学中、宗教行事の他、お昼の礼拝などで、私達生徒・学生も奉仕者をさせていただきました。当時、先生方は、志願する生徒には、何でもやらせて下さり、視覚障害者（注：その当時は準盲で、現在では全盲）の私に対しても他の生徒と同等に接してくれました。

当時の松蔭の中高・大学とも、クリスマス礼拝では、祭壇の中央に1本と左右に7本ずつの蠟燭（ろうそく）が立てられ、聖書朗読前の各聖歌を歌う間に、蠟燭捧持者が、祭壇中央に灯された蠟燭から火を取って左右1本ずつの蠟燭に火をつけていき、14本全部が灯されたら教話が始まるので、蠟燭捧持者というのは本当に重責でした。

目が不自由な私はこの奉仕を手探りで行うので、慣れないうちは蠟燭をつけ終わる前に聖歌が歌い終わったり、手先にやけどをして特大の水ぶくれを作ったり、蠟（ろう）が制服や聖歌隊ガウンに落ちたり・・・とハプニングだらけでした。保健室でやけどの手当てを受けた時、付き添って下さった当時のチャプレン長の（故）長沢四郎司祭が、「あなたを救うために生まれたイエス様が十字架上で忍んで下さった痛みや苦しみは、そんな程度のものとは比べものにならないことをよく覚えておくのですよ！ 今日貴女のやけどはな、祭壇奉仕者の勲章とも言えるのだし、これからもいろいろとやってもらいますから頑張りなさいよ・・・云々」と説教や激励をなさいました。かなり手荒いようですが、実践を通して信仰の訓練をしていただいたと感謝しています。

1970年代はまだ拡大コピーや音声パソコンなどが普及していない時代でしたから、蠟燭の光だけのキャンドルサービス中に、準盲の私は楽譜も歌詞も礼拝式文も見ることができないし、聖歌隊の先頭で白杖と十字架や蠟燭を持って行進している時には、たとえ聖歌集を持っていても、両手がふさがっていて見ることもできず、また点字の聖歌集を使うこともできないことなどを、私は経験を積むことによって知りました。そういうことを私に教えてくれる人が誰もいなかったからです。

それでも、礼拝奉仕担当の前に、当日の式文や聖歌を事前に憶えておけば、小さな文字の礼拝式文や聖歌の歌詞やコーラスの指揮が見えなくても大丈夫だとわかり、次第に自信をもつようになりました。そのおかげで、私は沢山の聖歌・讃美歌・その他の合唱曲を

覚えることができ、私の信仰の糧となり、大切な心の財産になり、後に始めた讚美歌創作のための糧にもなったと思います。

蠟燭捧持もその他の奉仕も、何度もチャンスを与えられることで私自身も慣れてきて、灯心を持つ位置の見当がつくようになり、また、火をつける蠟燭の芯の根元あたりをもう一方の手でさわりながら点火すれば、手探りでもけっこううまくいくことがわかってきました。また、キャンドルサービスの時には手鏡を用意すると蠟燭の光を約2倍の明るさにすることができます。この経験は、1995年に発生した阪神大震災で停電した時にも生かすことができました。

その他、枚挙にいとまがありませんが、健常者との学校生活の中で、視覚障害を持つ私が遅れをとらずについていくためにはどうすればよいのか？ ということをついつも自分で考え、工夫することを学び、それらは卒業後の私の大切な礎となりました。

ところで、皆様は、私たち障害者にとって一番つらいことは何だとお考えでしょうか？ 各人の障害の程度や置かれた状況によっても様々だと思いますが、それは、障害者だからこれはできないだろうとか、やらせてみてできなかつたら（本人ではなく自分達が）困るとか、いちいち介助しなければならないのなら、やらせない方がよい、などと理由をつけて、訓練や練習をすればできることでも、障害者が参加させてもらえない、或いは、障害者を参加させようとしめない、ということなのです。そして、何にも参加させてもらえないければ、「あの人（達）は何もできなくて役に立たない」という偏見や差別などが生まれて、とんでもない悪循環を生み出していることに気づいておられるでしょうか？

大学を卒業して、中学から10年間の松蔭での生活が終わると、十字架捧持も蠟燭捧持もさせていただく機会がなくなり、教会の中ではとても寂しい思いをしています。しかし、卒業するまでに何にでも参加させていただいたお陰で、私は自信と誇りを持って社会に出ることができました。

障害者が一般企業の一員として、健常者と一緒に同待遇での職務を遂行するためのノウハウも、私の場合は前述のいろいろな体験の中で学んで得たものが、ほとんどそのまま生きていて、それらは今でも大いに役立っています。

私たちの救いのためにイエス様をこの世にお送り下さった神様が、このような形で私にかけがえのないプレゼントを下さったことを感謝しています。神様が私たち一人一人に下さったいろいろなプ

レゼントを大切に、心から感謝しつつ、与えられた道を共に歩みたいと願っています。

＊＊ 河瀬はるさんは、日本聖公会神戸教区芦屋聖マルコ教会員でおられます。貴重な学びの言葉が多く込められて共に考え、学びを得たいと思い、ご本人のご了解を得て、母校である（神戸）松蔭高校同窓会誌上に掲載されました体験記を編集し転載させていただきました。

□□□□□□ 前回の報告 □□□□□□

日本語英国教会 St. Martin's 6月18日

通常の集会前に、希望者と共にジャッキーさんの協力を得て、イングランド教会出版の Pilgrim のテキストを使いながら、洗礼の意味について学ぶ集まりをしました。ヨハネ 1章 35節から 42節を読み、イエスの言葉「何を求めているのか」にこめられている意味について考えました。また、子供のクラフト活動とは別に明日香ちゃんが洗礼についてジャッキーさんから学びました。

礼拝の前、大人たちに囲まれながら、風船やシャボン玉を使って、聖霊の意味を子供達に語りました。空気は見えないと同じように、お父さんやお母さんからの愛は見えなくても、強い力があります。目に見えないけれど神様の愛を以て力がいつも子供達含めてみんなに注がれていることを感謝し、これからも注がれますよう祈りました。夏休み中の休会間近の集まりでしたので、おやつを食べてから、子供達と教会の庭でシャボン玉を飛ばして遊びました。神様の愛が注がれているかのように、それぞれ子供たちに素直な笑みがシャボン玉と共にキラキラと輝いていました。

礼拝後有志と共に園田先生宅へ向かい、短い祈りを唱え、共に聖歌を歌いました。先生の穏やかな笑みを拝見することができました。

□□□□□□ 苦しみをも分かち合う □□□□□□

マタイ 10章 24節から 33節

Griffith Tower の大火災があった 8 日後 6月 22日に現場付近を訪ねました。あちらこちらに行方不明という文字と顔写真のチラシが貼ってありました。立ち入り禁止区域付近には、数多くのメ

ッセージ、花束、おもちゃ、キャンドルなどが積まれ、各々のメッセージに、悲しみと同時に怒りが感じられました。

その地域の T 司祭は、大火災の直後、地区の主教から指示に従って、町を歩いた時、多くの人々に呼び止められ、それぞれの悲惨な体験を聞き、共に涙を流したというのです。ある方は「私達のためにあなた方クリスチャンは立ち上がり、すべきことをしてくださった」と司祭に感謝しました。最も苦しい人々のそばに立つ — この言葉を聞きながら 東日本大震災の際に救援活動された方から聞いた言葉—「寄り添う」「共に嘆く」が重なりました。

イエス様は主の栄光を分かち合うだけでなく、私達それぞれも十字架を背負い、そして苦しみをも分かち合いましょうと私たちに呼びかけています。神様の愛といつくしみはかぎりなく与えられています。何を恐れることがあるでしょうか

単にイエス様の教えをありがたい言葉と思うだけでなく、イエス様からの教えを実際に行うことができますように、共に祈りながら歩いていきたいと思えます。（礼拝中のトークの簡略）

ジョンソン友紀

□□□□□□ 園田先生 □□□□□□

6 月末から自宅での療養を続けておられる先生は、とても強い精神力そして厚い信仰を持たれながら今に至っております。

お見舞いの際に先生から伺った貴重な言葉と学びは、希望者の方々にメールにてすでにお伝えしておりますので、一部の方々には重複になりますが、一部を紙上をかりて分かち合いたく下記に記しました。

先生の大好きな祈り— ラインホルド・ニーバーの祈り（短文）

神よ、

私に変わることをできないものは、

それを素直に受け容れるような心の平和を！

変えることのできるものは、それを変える勇気を！

そして変えられるものと変えられないものとを、見分ける知恵を！

この私にお与えください。

先生の好きな聖歌は『主よ、ともにやどりませ (Abide with me, fast falls the eventide)』です。『Abide』は聖書の英語の

訳文によっては ヨハネによって洗礼を受けたイエスに聖霊が「とどまる」の表現に使われています。また、ヨハネ 15章1節から17節（イエスはまことのぶどうの木）のうちの、ヨハネ 15章4節「わたしにつながっていなさい。 わたしもあなたがたにつながっている」の「つながる」の表現にも使われています。

園田先生は言われました。「Abi de という言葉は イエスと私たちの関わりを示した言葉でもある。私はイエスさまと共にとどまる。イエスさま 私にも とどまっています（と祈りたい）。」 先生がお元気なころ、メールをいただくと 「主に在って」と返事をいただいております。先生が 神様と共に「在る」「とどまる」ことによって主と共に歩まれていることを知り感動しました。

「教会の牧師のコミュニケーションとはどうあるべきなんだろうか。聖書にはこう書いていますと伝えるのが目的なのか、むしろ、話を聞いてもらって それを基にして 自分の行動が変わるようにしてほしいと話してきた。往々にして保守的な教会になると聖書にこう書いてあるからと伝えるだけで終わってしまう一聖書に書いてあるからと それで済んでしまうと簡単なんだけど 社会はどんどん変わっているし、そう簡単にはいかない問題はいくらかも起こってきているし――最終的には人と人との対人関係が一番大切。神を愛して他者を愛することが中心 そうすれば いろいろな問題が起こらないで済むと思う」

先生のご容態は日々異なり、一喜一憂の状態かもしれませんが、すべて神様のみ胸のまま、ご計画のもとにおこなわれていることを私たちそれぞれが受け止めることができますよう、日々、主の御力、励ましが先生とご家族、そして私達に与えられますよう、共に祈り続けましょう。

ジョンソン友紀

□□□□□□ **聖書を読む会 St Hugh's 教会** □□□□□□

6月23日（金）聖書を読む会を持ち、ロンドン南東の集りをご支援下さる、Jos 司祭がご一緒されました。前回の学びで、イエスが人々を会堂で教え、悪霊を追い出し、熱病を癒し、色々な街々を巡り歩いて福音を伝え始めたことを受けて、今回はそれを人々がどのように受け止めていくかがポイントになりました。

イエスにより姑が癒された奇跡（ルカ 4：38 以下）を目の当たりにしたシモンは、イエスが湖に現れた時（ルカ 5：1－11）、漁からの帰りでした。夜通し働いたにもかかわらず、収穫はありませんでした。そのシモンが、半信半疑でイエスの言葉に従い網を降ろしたところ、今度は大漁となりました。シモンの努力とイエスの働きが対照されています。このように、自ら得意とするものを頼りに自分を主体として生きて来たシモンが、全てをイエスに委ねるようになります。

イエスは、新しいものと古いものの例え話を使って、古いものを捨てなければ新しいものを受け入れることが出来ないことを教えています。参加者の方から、新しいものと古いものの違いについてご質問がありましたので、イエスのたとえ話を 1 つ 1 つ丁寧に皆で考えました。パリサイ人や律法学者は、「また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである。」と、古いものの方が良いと考えていましたが、他の人々は、新しいものが良いと考えて、イエスの教えとみ業を受け入れました。さて、私達はどうでしょうか？

Jos 司祭が、当時の湖における漁業のあり方や、皮膚病を患っている人々の社会的な取り扱われ方などを丁寧に説明して下さい、その当時の時代背景が明らかになり、記述がより一層身近なものに感じられました。

ホール美奈子

*次回 キリスト教の勉強会 9月24日（日）午後3時半 St Hugh's

日本語英国教会 West Acton

9月17日（日曜日）

午後3時から 5時まで

夕べの祈り

ティータイム

場所：St. Martin's,
Hale Gardens, LONDON W3 9SG

皆様、お誘いあわせの上いらしてください。

Commissioned Lay Minister：ジョンソン友紀
120 Carthorse Lane REDDITCH B97 6SZ
携帯 07503 893880
yukifunakawa@btinternet.com

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>